

大人用



伝道地便り

2021年 第2期 中央アメリカ支部

- | | |
|----------------------|------------|
| 第1話 「ヒップホップダンサーの葛藤」 | トリニダード・トバゴ |
| 第2話 「失敗なならない神様」 | トリニダード・トバゴ |
| 第3話 「キリストの方法に従って」 | コロンビア |
| 第4話 「死への備えは出来ていますか？」 | メキシコ |
| 第5話 「幼い頃にまかれた種のカ」 | メキシコ |
| 第6話 「文書伝道者になりたい！」 | メキシコ |

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. ヒップホップダンサーの葛藤 —神様を選ぶか女の子を選ぶか

トリニダード・トバゴ



ダニエル・アマッタエラン 29歳

ダニエルは子どものころ、スリナム共和国の首都パラマリボに住んでいました。11歳の時、彼は近所の男の子と一緒にヒップホップダンスを見に行きました。

テレビでは見たことがありましたが、実際に見るのは初めてでした。宙返りや逆立ちをし、片手でジャンプするダンサーたちに、彼はすっかり魅了されました。女の子たちがうっとりとしてダンスを眺めているのに気付いたダニエルは、自分も注目されたいと思い、ダンスを習い始めました。彼はたちまちダンスにのめり込み、地元のコンテストで優勝したばかりか、オランダへの公演旅行まで実現しました。大人気になった彼のところには、女の子たちが群がってきました。

ある日、ベッドに座って考え事をしていると、声が聞こえたような気がしました。「ダニエル、あなたは人生で何をしたいと思っているの？」

ダニエルは驚いて、聖霊の声が聞こえたのかと思いました。小さい頃は両親に連れられて教会に行っていましたが、もう何年も足を運んでいませんでした。世の栄誉と楽しみを求めていたダニエルは、聖霊に話しかけられたくないと思いました。

「神様、今は待ってください。今でなくてもいいでしょ」と彼は言いました。できるだけ長いことダンスを続け、年を取って踊れなくなったら教会に行こうと決めていたのです。

ダニエルはサタンの攻撃を受けるという悪夢を見るようになりました。ある晩、再臨の夢を見ました。キリストが白い衣を着て雲に乗っているのが見えました。世界は炎に包まれ、人々は叫びながら走り回っていました。

ダニエルは胸をドキドキさせながら目覚めました。「ダメだ、完全に道を外れてしまった。神様のところに戻らないと」と彼は思いました。

しかしそうはしませんでした。

それから数年経った19歳の時、ダニエルは大学進学のために、クリスチャンではない親戚の家に下宿することになりました。ある日彼は、テーブルに『ヒップホップの真実』というDVDがあるのに気づきました。それはキリスト教系のもので、彼はなぜこれがノンクリスチャンの家にあるのかと驚きました。「これは誰が持ってきたの？」と家の人に聞きましたが、誰にもわかりませんでした。

ダニエルはそのDVDを見て、ヒップホップがもともとはギャングのもので、殺人や暴力、違法薬物と関係が深いと知り、非常に驚きました。頭が混乱してきました。「ヒップホップは悪いものとの繋がりが深いみたいだな。困ったな。単に歌っ

で楽しんで、女の子にモテるってだけのことかと思ってたのに」

ダニエルはダンサー仲間、DVDの内容が正しいのかどうかを聞きました。けれども「そんなわけないだろ。気にするな」と言われただけでした。

ダニエルはダンスを続けました。でも同時に、アドベンチストのいとこと教会に行き始めました。1か月にわたる伝道集会に参加しましたが、その半分以上が過ぎた頃、説教者が、バプテスマを受けたい人は前に出てくるようにと招きました。ダニエルは立ち上がりましたが、身体全体に震えが走りました。頭の中で2つの声が戦っていました。

一方の声は「このためにダンスを止めるつもりかい？ 金も女の子も、名声も手放すことになるぞ」と言い、もう一方は、「イエス様を選ぶんだ。それが唯一の道だよ」と言いました。

前に行くかどうかためらっていると、説教者は迷っている人たちも前に来るようにと促しました。

ダニエルはお金、名声、そして女の子たちのことを考えて、腰を下ろしました。

その夜、家に帰った彼はひざまずいて祈りました。「神様、もし私が悔い改めることをお望みでしたら、明日そのしるしを見せてください。説教者がまたアピールしたら、前に出ることができるように力を与えてください」

次の日の晩、説教者はまた前に出てくるよう招きました。ダニエルは立ち上がりましたが、身体全体が激しく震えました。またもや、言い争う2つの声が聞こえてきました。

「神様。一歩目を踏み出す力を与えてください」とダニエルは祈りました。

その瞬間、誰かに背中を優しく押されて、彼は思わず一歩前へと踏み出しました。最初の一歩が出ると、二歩目からは簡単でした。

そして今、29歳になったダニエルは、南カリビアン大学で牧師になるための勉強をしています。彼はフェイスブック伝道者を名乗り、霊的な動画をアップしたり、フェイスブック上で聖書研究をしたりといった活動を6年も続けています。彼のこの活動の結果、24人の人々がバプテスマに導かれました。

「神様は私に恵みをたくさんくださいました。だから私も真剣に伝道するのです」と彼は言っています。

3年前の13回献金で、ダニエルが学んでいるトリニダード・トバゴの南カリビアン大学に、初めての教会堂を建てることができたことを感謝します。今期の13回献金でもこの大学を覚えてくださることに感謝します。今回の献金は、大学のキャンパスに宣教師になるための訓練センターを作るために使われます。

〈お話のヒント〉

- YouTube でダニエルを見ることができます。
bit.ly/Daniel-Amattaeran
- Facebook (bit.ly/fb-mq) で、写真をダウンロードできます。
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードできます。
bit.ly/IAD-Facts

宣教メモ

- トリニダード・トバゴにアドベンチストの教えが伝わったのは、1879年にイギリスから送られた文書によるものと思われる。1880年か1881年には既に、安息日遵守者たちのグループが、ジェームズ・R・ブレイスワイトの指導の元、集会を持っていました。1880年台初頭には、アメリカの国際トラクトと宣教協会（International Tract and Missionary Society 略称ITMS）がアドベンチストの文書をトリニダード・トバゴに送っていました。トリニダードにおける、アドベンチストの教えに対する初めての積極的な応答は、エレン・ホワイトの『人類のあけぼの』に関するもので、この本はこの島の最初の安息日遵守者たちに提供されました。

2. 失敗なならない神様 トリニダード・トバゴ



クリスタル・ホワイト 32歳

カリブ諸島では子どもたちによくあだ名を付けます。

クリスタル・ホワイトのお姉さんはキャサリンという名前でしたが、オウムのようによくしゃべるので、オウムちゃんと呼ばれていました。

ロシェルという名前のお姉さんは、モップの棒のように痩せているからモブシーと呼ばれていました。

クリスタルはお父さんに、「おブスちゃん」と呼ばれていました。

ある日クリスタルが階段に座っていると、お父さんがその横を通りながら彼女の足をポンと叩いて、「よっ、おブスちゃん」と言ったのです。

クリスタルはとても嫌な気持ちになりました。学校では時々悪口を言われることがありましたが、お父さんにまでからかわれるのはショックでした。

「私ブスじゃないもん！」クリスタルは反発しました。

でもお父さんは平気な顔で、

「うちの10人の子どもの中で、お前が一番不細工だよ」と言ったのです。

クリスタルはひどく落ち込み、本当に自分が不細工になったような気になりました。

そして、お父さんのこの言葉が彼女の生活を変えてしまいました。うつに悩まされるようになり、自殺しようかと思ったこともありました。痩せたら可愛くなれるかと思って何も食べなくなりました。

毎日、学校が終わると自分の部屋で鏡をのぞき込み、自分の悪いところを探しました。

「どうしておでこがこんなに大きいのかしら」そう考えると涙が流れてきました。「歯もこんなに大きいし、しかもこんなに太ってるなんて！」

ある日、いつものように鏡の前に立っていると、ラジオから歌が流れてきました。

「忘れないで、あなたはとても美しい。忘れないで、神様はあなたを想像もできないほど素晴らしく造られた。あなたは主イエス・キリストの子どもなのです」という歌詞でした。

クリスタルはこの歌詞を聞いて驚き、そして考えました。「神様が私を想像もできないほど素晴らしく造ってくださったのなら、自分のあら捜しをするのは神様が失敗したと言っているのと同じだわ」

クリスタルはもっと激しく泣きながら、神様に赦してくださいと祈りました。悲しみと惨めさの涙は、喜びの涙へと変わりました。彼女は人の目ではなく神様の目から自分を見ることにしたのです。17歳のこの時、生まれて初めて彼女は自分をイエス様の目から見るようになったのです。詩編139篇14節が、自分にとって新しい意味を持つようになり、クリスタルはそれを喜びを持って読みました。

「こんなにも複雑かつ緻密に

仕上げてくださったことを感謝します。

想像することもできないくらい、すばらしいことです。

あなたのわざは驚くべきもので、
私にはとうてい、理解することはできません」
(リビングバイブル)

クリスタルはまた食べられるようになりました。
コーンスープにじゃがいも、キャッサバ、にんじん、カボチャ、タロ芋を入れたものを本当においしく食べるのができたのです。

もう自分に価値がないとは思いません。生きる理由ができたのです。

自分を哀れむ代わりに、彼女は全てを神様のみ手にゆだねることを学びました。自分の日毎の必要だけではなく、喜びに関しても、神様に信頼を置くようになりました。神様から与えられた喜びは誰も奪うことができないことに気づいたのです。

誰かに悪口を言われても無視するようになりました。お父さんに「おブスちゃん」と言われると、神様が自分を造ってくださったことを思い出し、「失敗なさることのない神様が、私をこの姿に造られたのだから」と自分に言い聞かせるのでした。

現在、クリスタルは33歳で、教会のリーダーとして、若い人たちに「失敗なさらない神様」のことを喜んで伝えています。

クリスタルは言っています。「若いころは、自分の味方になる人は誰もいないような気持ちでいました。今、私は周りの人たちに、神様が私と同じように彼らをも、目的をもって造られたことを伝えたいと思っています」

3年前の13回献金で、クリスタルの母校であるトリニダード・トバゴの南カリビアン大学に、初めての教会堂を建てるのができたことを感謝します。今期の13回献金でもこの大学を覚えてくださることに感謝します。今回の献金は、大学のキャンパスに宣教師になるための訓練センターを作るために使われます。

〈お話のヒント〉

- YouTube でクリスタルを見ることができます。
bit.ly/Crystal-White
- Facebook (bit.ly/fb-mq) で、写真をダウンロードできます。
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードできます。
bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- イギリスは1802年にスペインからトリニダードを、そして1814年にフランスからトバゴを獲得しました。1889年にトリニダード・トバゴはイギリスの1つの植民地として統合されました。1976年、この国は独立した共和制の国となりました。
- トリニダード・トバゴにおける奴隷制は1834年に廃止され、それからは契約による労働者がインドからやって来てサトウキビのプランテーションで働くようになりました。現在、トリニダード・トバゴの人口の約4分の1がヒンズー教徒です。
- トリニダード・トバゴのアスファルトの埋蔵量は世界一です。トリニダード南部にあるラブレアのピッチ湖には広さ40ヘクタール、深さ76メートルもあり、1000万トンのアスファルトがあると見積もられています。伝説によるとイギリスの探検家、ウォルター・ローリーが先住民族に案内されてこれを「発見」しました。ここには硫黄の池もあり、癒しの効果があるという評判です。

3. キリストの方法に従って —お米と砂糖をあげる

インド



マリア・トルデシラ 35歳

大学生の中には、他の学生よりも多くの助けを必要としている人がいます。2人の子どもを抱えたビアトリスは、そんな学生の1人でした。

「ごめんなさい、お米を少し貸してもらえませんか？」とビアトリスは大家さんのマリアに言いました。

大きな家に住んでいるマリアは、空いている部屋を貸していました。ビアトリスのクラスメイトでもある彼女は、お米を分けてあげました。

数日後、ビアトリスは他の物も必要になりました。

「お砂糖を少し分けてもらえませんか？」

マリアはお砂糖もあげました。

ビアトリスはその後もバナナや、お米、お砂糖が必要になりました。マリアはビアトリスを助けるのはまったく苦ではありませんでした。関わりを持つ度にマリアは、自分がイエスの伝道方法に忠実に従えますようにと祈りました。彼女はエレン・ホワイトの『ミニストリー・オブ・ヒーリン

グ』を読み、キリストの方法を学んでいました。そこにはこう書いてありました。「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間と交際しておられた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして『わたしについてきなさい』とご命令になった」

マリアがビアトリスに同情を示し、彼女の必要を満たしているうちに、2人の間には温かい友情が生まれました。マリアは自分の教会の伝道講演会にビアトリスを招きました。ビアトリスは喜んで参加し、マリアと一緒に聖書を勉強するようになりました。しばらくして、彼女はバプテスマを受けました。他の下宿人たちも毎週聖書研究に参加し、それは30人もの大きなグループになりました。

ある時、別の学生がマリアに、大学の理事と話すことになったので一緒に来て心の支えになってほしいと頼みました。2人が大学に着くと、理事はなぜマリアがいるのかと思いました。

「この女性はどなたなの？」理事は学生に聞きました。

「僕の聖書研究グループのリーダーです」彼は答えました。

理事は驚いて、詳しく聞きたがりました。マリアは、大学生たちが週に一度彼女の家で聖書研究をしていて、サポートグループを作っているのだと説明しました。

理事は「素晴らしいですね！ 近頃は、他人のために行動できる人なんてなかなかいないですよ」と言いました。そして、大学生のグループだから、大学のキャンパス内でその聖書研究をしてはどうかとマリアに提案しました。

大学はこのグループに、学習センターを貸して

くれました。屋根と椅子だけの建物で、壁もドアもありません。集まりを持っているのが他の学生たちにもすぐにわかって、何人かが加わりました。30人だったグループは、40人になりました。その中には大学の先生も3人いました。

マリアのクラスメイトのローザは、最初集会に来るのは気が進まないようでした。マリアはローザが集会に来て来なくても気にせず、ただ友人になりたいと考えていました。そしてローザに電話やメールをしたり、家に招いて一緒に食事をしたりしました。ローザは、イエス様を失望させたくないのに聖書を読むのが怖いと言っていました。やがてこの小グループに参加しました。聖書を読み、祈るうちに、彼女の恐れは消えてイエス様を信じるようになりました。数か月後、彼女はイエス様に心を捧げてバプテスマを受けました。

マリアはローザの決心に大喜びでした。これが、この聖書研究のグループが始まってから10人目のバプテスマになりました。

マリアは、この聖書研究グループの成功は、キリストの方法によるものだと言っています。

マリアの言葉です。「私はローザを誘うのに、キリストの方法を使いました。私はグループのすべての青年たちに、キリストの方法で接しています」

今期の13回献金の一部は、マリアの故郷から飛行機で2時間の距離にあるコロンビア・アドベンチスト大学に、キリストの方法に従ったベターリビングセンターを作るために使われます。みなさんの、13回献金のための計画に感謝します。

〈お話のヒント〉

- マリアの聖書研究グループは、コロンビアのモンテリアにあるデルシヌ大学で活動しています。
- Facebook (bit.ly/fb-mq) で、写真をダウンロードできます。
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードできます。
bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- コロンビアの公用語は標準的なスペイン語です。正しいスペイン語を守るため、この国では多くの努力が重ねられてきました。コロンビアにはそのほかに180もの固有の言語や方言があります。
- コロンビアの識字率は世界の平均を上回っています。94パーセント以上の人が読み書きをすることができます。
- コロンビアの有名な輸出品は2つあります。1つは世界的に有名なコーヒー、もう1つはエメラルドで、エメラルドの埋蔵量は世界一です。
- 15世紀にスペイン人がやって来るまで、コロンビアに住んでいたのは半遊牧的な民族でした。1810年7月20日にスペインから独立したコロンビアは、1886年にコロンビア共和国となりました。

4. 死への備えは出来ていますか？

インド



ロジャー・ペック 52歳

メキシコのビヤエルモサという町にあるアドベンチスト病院のチャプレン、ロジャー牧師は、毎日すべての入院患者の部屋を訪ねています。

ある日、ロジャー牧師は、新しく入院してきた80歳のホセという男性のところにいました。ホセは糖尿病と高血圧症で、とても弱っていました。

ロジャー牧師はホセのことを以前から知っていました。この老人はそれまでの20年ほど、今ベッドの脇にいるアドベンチストの息子と同居していました。孫娘はこの病院で看護師として働いていました。ホセは聖書研究をして伝道講演会にも出席していたので、アドベンチストの信仰を知ってはいました。けれどもイエス様に心を捧げる決心はまだでした。

ロジャー牧師は優しく、でも率直に言いました。「ホセさん、死への備えはできていますか？ 赦されたと感じていますか？ 天国に行く準備はできていますか？」

「死ぬということはわかっています。でも準備

はできていません。罪が赦されたとは思えないのです」とホセは答えました。それから息子と孫娘に対し、アドベンチストの病院に連れてきてくれたことを感謝し、身体的また霊的な健康を神様に感謝しました。

「ご家族に対して感謝しておられるのは素晴らしいですね。ご家族への感謝の気持ちがあり、神様の守りを確信しておられるのに、なぜイエス様に心を捧げる決心をしていないのですか？」とロジャー牧師は尋ねました。

ホセは、自分は今までずっと他の教派の教会に属してきたのだと言いました。そして「孫とアドベンチストの伝道講演会に行ったので、それでもう十分だと思っていました」と言いました。

牧師はホセの目をのぞき込みました。「もしまだ死への備えができていなくて、罪が赦されたと感じられないのなら、伝道講演会に出る以上のことをする必要があります。やり残しているのは、イエス様にあなたの命を捧げることです」

ホセは考え始めました。しばらくして彼は言いました。「多分私にはそれが必要なのでしょうかね」

ホセの息子のホセ・ジュニアが言いました。「父は神様のことは知っています。聖書研究をたくさんしましたし、伝道講演会にもたくさん出席しています。必要なのは決心だけです」

「決心をするには絶好の機会ですね。これを逃したらチャンスはないかもしれません。もし決心ができたなら私がバプテスマを授けましょう」とロジャー牧師は言いました。

その晩ホセは、バプテスマを受けてイエス様に命を捧げる決心をしました。ロジャー牧師は、ホセにバプテスマを受ける体力が与えられるようにと祈りました。

翌日、ホセは前日よりもずっと元気になってい

ました。バプテスマを受けたいという気持ちは変わっていませんでしたので、牧師はバプテスマのための書類を書いて、約束を守ってくれますねと確認しました。

「もちろんです」とホセは答えました。そして退院から1週間後にバプテスマを受けました。バプテスマの日、ホセはとても幸せな気分で、ロジャー牧師と握手しながら、「先生、約束を守りましたよ」と言いました。

それから、ホセは忠実に毎週安息日に教会に通いました。そして3年後の2019年に83歳で眠りにつきました。

ロジャー牧師がこの病院で見てきた、イエス様の愛によって変えられた患者たちは、ホセ以外にもたくさんいました。ロジャー牧師は普段はホセにしたような率直な言い方はしませんが、ホセの場合は、神様についてよく知っていたので、率直に語ったほうがよいだろうと思ったのでした。彼はキリストが人々と交わられた方法に従っています。それはエレン・ホワイトの『ミニストリー・オブ・ヒーリング』に書かれています。「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間と交際しておられた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして『わたしについてきなさい』とご命令になった」

ロジャー牧師は、病人に囲まれているのは病院のチャプレンだけではないと言っています。この世界は罪という病に侵された人々であふれています。大切なのは、まず耳を傾けて同情を示すことだと彼は言います。そしてこうも言っています。

「患者さんが自分の内側にある重荷を外に出してしまえば、人の言うことを聞いてアドバイスを受け入れることが容易になります。それから、イエス様のことを話せばよいのです」

2018年の13回献金により、メキシコのピヤエルモサにあるアドベンチストのサウスイースト病院を増築することができました。そのおかげで、患者をより多く受け入れることができるようになり、ロジャー牧師と7人のボランティアによるイ

エス様の愛についての話しを聞く患者も増えてきました。皆さんの献金に心から感謝します。

〈お話のヒント〉

- YouTube でロジャー牧師を見ることができます。
bit.ly/Roger-Pech
- Facebook (bit.ly/fb-mq) で、写真をダウンロードできます。
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードできます。
bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- メキシコにおけるセブンスデー・アドベンチストの伝道活動は、1891年にアメリカ人の洋服屋S.マルチシオが、メキシコシティに『各時代の争闘』を売りに行ったのが始まりでした。2年後の1893年に、ダン.T.ジョーンズ、リリス・ウッド医師、アイダ・クロフォード、オラ・オズボーン、アルフレッド・クーパーとその妻の宣教師の一団がグアダハラハラに到着し、診療所と学校を開きました。のちにその診療所はグアダハラ病院へと発展しました。レビューアンドヘラルド誌はこの事業を、アメリカ合衆国以外で行われたアドベンチストの初めての医療伝道であると報じました。

5. 幼い頃にまかれた種のカ

メキシコ



フロレンシオ・バスケス 61歳

メキシコに住むフロレンシオは、4歳の頃、おばあちゃんの畑で一生懸命働いていました。2人のいとこと一緒に、米、アボカド、カカオ、バラを植えてその世話をしていたのです。近所の7歳の少年アントニオも一緒に働いていました。

フロレンシオはアントニオが土曜日に働かないことに気づきました。そして、いとこたちのように土曜の午後にお給料を取りに来ることもないのに気づきました。土曜の夜、暗くなってから取りに来るのです。

フロレンシオはその理由を尋ねました。

「僕は聖書を読んでいるんだよ。神様は、土曜日は神様の日だから働かないようにとっておられるんだ」とアントニオは言いました。

フロレンシオはアントニオの言うことは正しいに違いないと思いました。彼が他の子たちとは違っていただけからです。アントニオは礼儀正しく、優しく、聖書を読んでいた。彼は親友でした。

何日か経ったお休みの日、アントニオはトウモロコシでできたポゾルという飲み物を一緒に飲んでいたら、フロレンシオを教会に誘いました。

「教会に来てみない？ 子どものためのプログラムがあるよ。一緒に聖書を読もうよ。新しい友達も作れるよ」

「行ってみたい！」とフロレンシオは答えました。

しかし行くことはできませんでした。おばあちゃんが他の教派に属していて、セブンスデー・アドベンチストが好きではなかったのです。土曜日に働かないなんて怠け者だと思っていたのです。

アントニオはあきらめず、何日かしてまたフロレンシオを誘いました。

「一緒に教会に行こうよ」

フロレンシオは行きたかったのですが、おばあちゃんが許してくれませんでした。

アントニオは何度もフロレンシオを誘ってくれました。1か月が過ぎたころ、チャンスが巡ってきました。ある土曜日の朝早く、おばあちゃんがアボカドとバラを売りに家を出て行ったのです。フロレンシオはアントニオと一緒に教会に行き、そこがとても気に入りました。みんな優しく、子ども安息日学校のプログラムは本当に楽しかったのです。

家に帰るとおばあちゃんが待っていました。

「どこに行ってたんだい？」おばあちゃんはきつい調子で尋ねました。

「アントニオとアドベンチストの教会に行ってたの」とフロレンシオは答えました。

おばあちゃんのかんかんに怒ってこう言いました。

「あの教会は好きじゃないんだ。もう行ってはいけないよ。行かなかったらビールを買ってあげるからね」

フロレンシオはアントニオと土曜日に教会に行き続けました。おばあちゃんが農産物売るために出かけていくと家から抜け出し、おばあちゃんが帰る前に戻るようにしました。

2 年が過ぎたころ、アントニオは家族と一緒によその町に引っ越してしまいました。

友だちがいなくなると、フロレンシオは教会に行くことをやめてしまい、不健康な習慣を身に付けました。おばあちゃんが禁じなかつたので、9 歳になるころにはビールをたくさん飲んでいました。それからマリファナを吸い、コカインを使うようにもなりました。

それでも、アントニオが彼の心に蒔いた種は大人になってもまだ生きていました。

中毒と何年も闘ったのち、フロレンシオは神様に助けを求め、「どうぞ癒してください」と祈りました。

1 年間同じ祈りを続けると、お酒やマリファナやその他の薬物への気持ちが突然去っていきました。45 歳のとき、彼は中毒から解放され、神様が祈りに答えてくださったことを感じて喜びました。彼は自分の心をイエス様に捧げ、セブンスデー・アドベンチスト教会に加わりました。

フロレンシオは、自分がアドベンチストになったのは、4 歳の頃にアントニオから教わったことを覚えていたからだと言っています。その教わったことというのは、アドベンチスト教会が聖書に従って、第 7 日安息日を含む神様のすべての律法を守っているということです。

現在フロレンシオは 61 歳で、神様がどのようにして彼をアルコールと薬物の生活から救ってくれたかを喜んで話しています。彼の個人的な証を聞き、一緒に聖書研究をした人たちから、約 20 人がイエス様に心を捧げました。

フロレンシオはこう言っています。「私たちの神様は力強いお方です。その力を説明することはできませんが、その力は私の人生を変えました」

2018 年の 13 回献金により、フロレンシオの故郷、メキシコのビヤエルモサにあるアドベンチストのサウスイースト病院を増築することができたことを感謝します。

〈お話のヒント〉

- YouTube でフロレンシオを見ることができます。
bit.ly/Florencio-Vazquez
- Facebook (bit.ly/fb-mq) で、写真をダウンロードできます。
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードできます。
bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- メキシコで一番人気のあるスポーツはサッカーです。1970 年と 1986 年のワールドカップサッカーはメキシコで開催されました。1968 年の夏のオリンピックもメキシコで行われました。
- メキシコの人口の半分以上は国の中央部に住んでいます。北部の広大な乾燥地帯と南部の熱帯地方にはほとんど人が住んでいません。不毛な田舎に住む人々が都市部に流れてきたため、現在メキシコ人の 80 パーセント近くは都市部に住んでいます。首都のメキシコシティは、世界一人口密度の高い都市の一つです。

6. 文書伝道者になりたい！

メキシコ



アシュリー・アルバレス 20歳

きっかけは、私の高校入学でした。それはメキシコの小さな町の高校で、アメリカ合衆国テキサス州と接する国境から車で2時間行ったところがありました。

私はクラスメイトのケッジと仲良くなり、彼女がセブンスデー・アドベンチストであることを知りました。彼女はキャンプやそのほかの教会の活動に私を何度も誘ってくれました。でも私はずっとその誘いを断っていました。

「親が行かせてくれないから無理」と言いましたが、本当は親に許可をもらおうともしていませんでした。ただ興味がなかっただけで、彼女の招待は耳を素通りしてしまいました。

ときどきケッジと私は安息日について話し合ったりもしました。ケッジは自分の信じていることを私に言い、私は自分の信じていることを言いました。でも実際は、自分が何を信じているかもわかっていませんでした。ただ相手と反対のことを言っていたのです。私の父はいつ礼拝しても違いは無いと言っていました。

高校を卒業すると、ケッジは医学のコースに進

むことになりました。一方、私は大学に落ちてしまいました。私は神様に忘れられてしまったと思うようになりました。1年ほど悲しい気持ちで過ごしていましたが、そんな時ケッジがまたキャンプに誘ってくれました。私は行くことにしました。

私はすぐにキャンプが気に入りました。キャンプの参加者たちがとても優しく受け入れてくれたのです。

この3日間のキャンプは伝道活動に焦点を置いたものでした。私たちは川の清掃や、アドベンチスト教会の改装をしました。中でも訪問伝道が一番印象に残りました。讚美歌を歌ったり聖句を読んだりすると人々の顔が輝いたのです。人々の心が私たちの祈りによって変えられていくのを見ることができました。

それまで私は伝道の働きをしたことがありませんでしたが、とても気分がよくなることに自分でも驚きました。そして「もっとこれをしたいわ。毎日続けたい！」と思ったのです。

このキャンプでの週末が私の人生を変えました。悲しみが消えていき、人生に目的ができたように感じたのです。

けれどもその目的が何なのかはわかりませんでした。

両親にキャンプについて話しても、まったく興味を示しませんでした。

次の安息日、私は教会に行きました。教会の人たちは私を歓迎して教会活動に参加させてくれました。それから私は、聖書を読み、毎週安息日に教会に通う中で多くのことを学びました。

キャンプからちょうど1か月後、モンテモレロス大学の神学科の学生が、教会で1週間の伝道講演会を開きました。私は神学科生を家に招き、一緒に食事をしました。彼は聖書について家族と話をしました。帰る支度をしながら彼は「バプテスマについて考えたことはありますか？」と尋ねま

した。

私はそのとき、「それを言ってほしかったのよ！」と思いました。そしてすぐに、バプテスマを受ける決心をしました。3日後、両親とケッジの見守る中、私はバプテスマを受けました。

1か月後、私はモンテモレロス大学で行われたパスファインダーのキャンポリーに参加しました。証の時間に、司会者が私を前に招いて、話をするように言いました。みんな私の話感動した様子でした。話し終わると司会者は、「彼女はモンテモレロス大学で学びたいと思っています」と言いました。

実際には、私はその大学で学ぼうと思っていませんでした。お金も無かったし、両親と一緒にいたかったからです。しかし、「夏の間文書伝道をして学費を稼いだら」という大学の先生の誘いを断ることはできませんでした。大学の近くの家々を回るうちに、私は自分の信仰について多くを学ぶことができました。そしてキャンプのときに思った、訪問伝道をしたいという願いが実現したのだと思いました。私は文書伝道が大好きになったのです。

夏が終わると、両親に言われて、私は家に戻りました。家にいても、私は大学に戻って文書伝道で学費を稼ぎたくてたまりませんでした。神様が私に文書伝道者として働くように召しておられるのだということがわかりました。

ついに私は両親に、大学まで送ってくれないのなら自力で行くと言いました。両親はムツとした顔で私を大学まで送り、さようならも言わずに帰っていきました。辛い気持ちで神様に祈りました。「主よ、私にはあなたしかいなくなりました」

両親と連絡を取らないまま1か月が過ぎました。私は、この決断は間違いだったのかしらと思いました。父に電話し、家に帰ると言おうとしたとき、父が言いました。「帰ってきてはいけないよ。そこにいなさい。お母さんと私はアドベンチストになることにしたんだ」

信じられませんでした！ 私は泣き出しました。あまり泣くので話ができないほどでした。

後でわかったのですが、両親は私が文書伝道者

になって神様に仕えようと決心したことに非常に驚いて、私を大学に送った後、詳しいことを知るためにアドベンチスト教会に行くことを決めたそうです。そして聖書研究をして、バプテスマを受ける決心をしました。その間ずっと私は、両親が私のことを怒っていると思い込んでいたのです。

その電話から6週間後、父と母は私の17歳の弟と13歳の妹と一緒にバプテスマを受けました。文書伝道をしなさいという神様の召しに忠実に従った結果、家族がバプテスマを受けたのです。

私の故郷のサン・フェルナンドは小さな町なので、家族がアドベンチスト教会に加わったことは周りに知られるようになりました。両親と私の証を聞いて多くの家族が教会に興味を持つようになりました。次に何が起こるかはまだわかりません。私たちの物語は始まったばかりなのです。

今期の13回献金は、モンテモレロス大学とその他12の中米支部のセブンスデー・アドベンチストの高等教育施設に、宣教師の訓練センターを作るために使われます。福音を世界に広めるための13回献金を惜しみなく献げてくださることに感謝します。

〈お話のヒント〉

- このお話は若い女性に読んでもらおうと良いでしょう。
- YouTube でアシュリーを見ることができます。
bit.ly/Ashley-Alvarez
- Facebook (bit.ly/fb-mq) で、写真をダウンロードできます。
- 中央アメリカ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をからダウンロードできます。
bit.ly/IAD-Facts

豆知識

- メキシコでは、住民のほとんどが公用語であるスペイン語を話していますが、60もの地元の言語も現在使われています。ベラクルス州ではワステコ語、ユカタン州ではマヤ語、メサ中央地域ではマサワ語、ナワトル語、オトミ語、タラスコ語、トトナカ語、チアパス州ではツェルタル語とツォツィル語、オアハカ州ではサポテコ語、ミシュテカ語、マサテコ語が使われています。
- メキシコは、渡りをする生物にとって重要な場所です。毎年秋になると無数の鴨やガチョウがメキシコの山に飛んで来ます。オオカバマダラという大型の蝶々が、毎年何百万もアメリカからやって来て、ミチョアカン州の山森で冬を越します。オオカバマダラ生物圏保護区は2008年ユネスコの世界遺産に登録されました。けれども、メキシコシティの公害と木の伐採により、蝶もその住みかとなる木も危機にさらされています。
- メキシコ国旗の3色は、この国が大切にしていることを表しています。緑は希望と勝利、白は純潔、赤はこの国の英雄たちの流した血を象徴しています。